



サカ 6(1)

立憲改進黨報 第壹號

立憲改進黨報 第壹號

烏兔匆匆矢よりも疾く、我立憲改進黨が明治十五年四月十六日帝都の中央に於て結黨の式を擧げ、巍然改進黨の風色を天下に飄へしてより、早や既に十稔禍。廟堂の此間に於て我黨が驟霧を排し激浪を蹴り、堅志努力、一意單道、皇の尊榮と人民の幸福とを保全増進するの大義を首唱し、内治の改良より延て國權の擴張に及ぼし、及中央干渉の政害を省きて地方自治の基礎を建つるの旨を號呼し、以て立憲法治の開拓と責任内閣の創立の準備に盡瘁せしことは、是れ夙に天下の認識する所、我黨が國家の爲めに忠誠を擧げんとするや久し。然れども時運の變轉は我黨をして幾回か行路の難に際會せしめたり。顧みれば明治十七年の交各政黨の衰頹既に其極度に陥り、政黨政社多くは解散して其影を止めず。十八年の臘末伊藤伯新内閣を組織するに及んで、政府の權勢軌轍の如く、民權の廢頓見る影もな

く、民権の志士唯面を蔽ふて長大息するの外なし。此時に當り我改進黨は泰然孤城を固守して、民權の頽運を支へ、大事あれば則ち孤劍を振つて自から難に當り、營々倦まず、誇々屈せず、十年の星霜轉九一夕夢に似たり。蓋し我黨を衆が冰凍秋霜能く苦節を保ち、日々と其久しきを齎ふの忍耐を有せずんば、何を以てか今日あるを致さん。

帝國議會は去明治廿三年を以て開設せられ、立憲の舞臺愈々開幕と爲るや。我黨は此に積年の希望を實地の國政に應用せんとを謀り、或は政費節減の爲めに廿四年度の豫算に七百八十万圓の節減を加へんとし、或は政弊革新の爲めに官制改革の必要を唱へ、或は民力休養の爲めに地租輕減に盡力し、或は言論の自由を伸暢するが爲めに三條例の改正案を提出し、或は地方の自治を擴張するが爲めに郡制府縣制の改正を論じ、或は議會の權限を伸張するが爲めに議院法の改正を唱へ、或は特任責任内閣の實行を期するが爲めに、民黨各派と肝膽相投じ、至誠相擁し、各黨の異議を伏せ、民黨の一聯盟を形造り、一鞭崎嶇の峻險を蹴て更進を下院に打ち取りしこと當に再三再四のみならず。然れども浮雲月を蔽ひ驟雨花を散らす如きもの、是れ世事の常態か。政界の事殊に障礙百出、假令下院を通過したる法案

立憲改進黨報

第貳號

次目

● 論	● 演	● 雜	● 黨	● 時	● 議	● 出	● 欠	● 士	● 遺	● 朝	● 雜	● 演	● 論	● 黨	
● 地價修正	● 朝鮮防範	● 朝鮮京城通信	● 朝鮮京城通信	● 伊藤伯大綱	● 貴衆兩院共	● 出税問題	● 欠稅問題	● 士族選舉	● 遺囑繼承	● 朝鮮京城通信	● 朝鮮京城通信	● 朝鮮京城通信	● 朝鮮京城通信	● 朝鮮京城通信	● 朝鮮京城通信

サカ 6 2

立憲改進黨報 第1-10号

早稻田大学図書館蔵 / Waseda University Library

サカ6

